



小倉城  
KOKURA CASTLE

# 歴史散歩

# 周遊マップ

Historical Walking Map

## 池泉回遊式庭園と本格的木造建築の書院造り

### 小倉城庭園

Kokura Castle Garden

細川時代には家老の長岡佐渡の屋敷、小笠原時代には藩主の下屋敷（別邸／御遊所）があった場所に、江戸時代の大名の池泉回遊式庭園と武家の書院が再現されている。これに茶室や展示棟を備え、小倉城庭園は庭園ゾーン・書院ゾーン・体験ゾーン・展示ゾーンの4つに分かれています。体験ゾーンでは抹茶や季節の和菓子を楽しむことができます。「立礼席や、茶会に利用できる座敷があります。展示ゾーンでは、全国的にも珍しい「礼儀作法」を中心とした日本の伝統的な生活文化を伝えています。小笠原流の作法を記した「小笠原礼法絵巻」も公開。庭園から眺める小倉城の美しさも見逃せません。

住所：小倉北区内1-2  
電話：093-582-2747  
営業：4-10月9:00～18:00 / 11-3月9:00～17:00、年中無休  
※入館は開館の30分前まで  
料金：350円  
（中学生200円・小学生100円）  
MAP ⑧

日本の礼法に焦点をあてた常設展示に加え、年4回、日本の伝統的な生活文化に密着した企画展示も行われている。

## 小倉城ゆかりの人物たち

小倉の町に歴史を刻んできた人々。彼らの生きた痕跡を探しに、歴史散歩に出かけてみては？

もりよしなり  
**森吉成**  
もりよしなり  
**毛利勝信**

小倉城の歴史は、戦国末期（1569年）、中国地方の毛利氏が現在の地に城を築いたことから始まります。森吉成は秀吉に仕え、九州平定に参戦。天正15（1587）年に小倉6万石を与えられ、その後、小倉城の城主となりました。また、秀吉の命により毛利勝信と名を改めます。

ほそかわただとし  
**細川忠興**  
（細川小倉藩初代藩主）

信長・秀吉・家康の天下人に仕えた細川忠興は、小倉藩主としては唐造りと呼ばれる特徴的な城を築城したほか、城下町小倉を賑わいの町につくり上げました。また、知勇兼備の名将として知られ、歌道や茶の湯にも精通した文化人でもありました。八坂神社を創建し、祇園祭を始めなど、今に伝わる様々な文化を小倉にもたらした人物でもあります。  
写真 / 永青文庫蔵

ほそかわただとし  
**細川忠利**  
（細川小倉藩2代藩主）

細川忠利は、忠興とガラシャの三男として生まれましたが、将軍・徳川秀忠の信頼を得ていたことから、家督を相続して小倉藩主になりました。忠利は、藩主として農民の救済や目安箱の設置など、新しい時代の基礎づくりを行いました。その後、熊本藩の初代藩主となり、熊本藩政の基礎を築きました。  
写真 / 永青文庫蔵

## 小笠原忠真

（小笠原小倉藩初代藩主）

小笠原氏は新羅三郎義光を先祖とする甲斐源氏の子孫で、古くから武家礼法の指南役として知られていました。忠真は信濃国松本藩初代藩主・小笠原秀政の次男で、播磨国明石10万石を経て、1632（寛永9）年に豊前国小倉藩主となります。織田信長と徳川家康のひ孫にあたる譜代大名で、九州の外様大名の監視役の任を受けました。  
写真 / 広島山福楽寺所蔵

みやもとむさし  
**宮本武蔵**

宮本武蔵は、自ら編み出した剣術「二刀流」を試すため、13歳で武者修行の旅に出ます。その旅の途中、小倉で出会ったのが佐々木小次郎です。嚴流島の決闘以降も武蔵は兵法を極める旅を続け、再び小倉の地を踏んだのは50歳を超えてからでした。小倉藩主小笠原忠真の家老となった養子・伊織を引き立てつつ、自身は兵法と芸術の道を歩みます。その後、細川忠利に招かれて向かった肥後国（熊本県）で「五輪書」を書き上げて生涯を閉じました。  
写真 / 島田美術館蔵

たかだまたべえ  
**高田又兵衛**

宝蔵院流高田派槍術（十文字槍）の始祖「槍の又兵衛」として有名な武芸者。高田吉春の子として伊賀国に生まれ、安土桃山時代から江戸時代初期にかけて活躍しました。小倉藩主小笠原忠真に仕え、宮本武蔵と御前試合をしたことでも有名です。島原の乱においても、原城攻めで功績をあげ名を馳せました。  
写真 / 高田憲治氏所蔵

みやもといおり  
**宮本伊織**

宮本武蔵の兄である田原久光の次男として播磨国（兵庫県）で生まれました。武蔵の養子となり、15歳で播磨国明石藩主の小笠原家に仕えます。20歳で家老に抜擢され、小笠原家が小倉に移った時には筆頭家老に出世していました。養子・伊織を優秀な人材に育て上げたことは、宮本武蔵の偉業の一つでもあります。

## 小倉城の石垣

Stone Walls

2度の戦火に巻き込まれた小倉城ですが、石垣は築城当時の姿が残っています。特徴的なのは、切石を使わず自然の石を積み上げる技法「野面積み」。石は小倉城の東に位置する足立山から運ばれたものだと伝えられています。

また、3Dスキャナーで石垣の構造調査を行ったところ、小倉城天守の直下部分の石垣に内側にカーブさせて積み「輪取り」という技術が用いられていることが判明しました。これは強度を保つための工夫だったと思われます。

石垣を楽しみたい方へ

MAP ① 天守櫓西面 石垣の上段が赤く変色している。この部分の石は天保期・幕末期の火災によって焼けたものかもしれない。

MAP ② 井戸（段門）横 細川氏が築城した城には城壁をくぐらせた井戸が見受けられる。

MAP ③ 石垣の改築（西ノ口門）跡地 かつての石垣の「隅石」がみられる。左側が細川氏が築いた石垣、右側が近代以降に新しく築かれた石垣。

MAP ④ 大内 どのように複数の巨石で雄大な構成されている石垣は非にめずらしい。

MAP ⑤ 石垣の最下段と上部の色が異なる。上部は平成期に再建されたもの、下段は創建当時のものと考えられている。

## 英彦山

Of. Hiko

## 上野焼

Agano Ware

茶道を愛した細川忠興の器

上野焼は、1602年に豊前小倉藩主・細川忠興が李朝陶工・尊楷を招いて小倉藩の領地だった上野・田川郡福智町に窯を築いたことがはじまりとされています。細川忠興は千利休から直接教えを受け、茶道に造詣が深いことも知られています。

細川家、小笠原家といった歴代城主の支援のもとで生産が続けられた。徳川時代には遠く七瀬川時代の一つに数えられた。

明治時代に廃産置棄により窯が閉鎖され、窯元は途絶えた。また、使用する釉薬の種類が多く、窯の中で釉薬が様々な模様を描き出す「窯変」も魅力の一つです。

再興され、今に至ります。1983（昭和58）年には国の伝統的工芸品に指定されました。

茶陶として発展した上野焼は軽く、薄づくりであることが特徴。また、使用する釉薬の種類が多く、窯の中で釉薬が様々な模様を描き出す「窯変」も魅力の一つです。

住所：上野焼陶器館  
住所：田川郡福智町上野 2811-1  
電話：0947-28-5864  
（上野焼協同組合）  
営業：10:00～17:00、火曜定休  
※窯元には各自お問合せください

## 小倉の歴史が残る修験の山

英彦山は、福岡県田川郡添田町と大分県中津市山国町にまたがる標高1199メートルの山。羽黒山（山形県、熊野大峰山（奈良県）とともに「日本三大修験道」の一つに数えられます。山伏の修験道場として古くから武芸の鍛錬に力を入れており、最盛期には大名に匹敵するほどの兵力を保持していたとされます。一説によります。佐々木小次郎は添田町にあった「岩石城」を拠点とした佐々木氏の出で、背後には

英彦山修験道の山伏勢力が控えていたため、あの有名な「巖流島の戦い」は、土着勢力を恐れた細川忠興が小次郎の抹殺を図ったものとの説もあるようです。桃山建築様式の「英彦山神宮奉幣殿」は、1616（元和2）年に細川忠興が再建したものです。以後、小倉藩主によって修復されており、様々な場面で小倉城とのつながりが感じられます。

英彦山  
住所：田川郡添田町英彦山  
電話：0947-82-1236  
（添田役場まちづくり課）

英彦山神宮  
住所：田川郡添田町英彦山1  
電話：0947-85-0001

## 北九州カルチャー

よりみち散歩

**A** 北九州市松本清張記念館

「或る『小倉日記』伝」「点と線」などの代表作で知られる北九州市出身の国民的作家、松本清張。その創作活動や人物像を、豊富な資料や通品、映像、再現家屋などで紹介しています。

住所：小倉北区内2-3  
電話：093-582-2761  
営業：9:30～18:00（入館は17:30まで）  
12月：年末（12月29日～12月31日）、館内整理日  
料金：600円（一般）、360円（中学生）、240円（小学生）  
※小倉城・小倉城庭園との3施設共通券もあります。

**B** 北九州市立文学館

火野葦平、林芙美子、杉田久女など多くの文学者を輩出した北九州市。文学館では、ゆかりの文学者による原稿や自筆資料、北九州の文芸のあゆみを展示しています。

住所：小倉北区内4-1  
電話：093-571-1505  
営業：9:30～18:00（入館は17:30まで）  
12月：月曜日（休日の場合はその翌日）、12月29日～1月3日  
料金：240円（一般）、120円（中学生）、60円（小学生）

**C** ゼンリンミュージアム

2020年、北九州に「ゼンリンミュージアム」が誕生。地図に関する企画展、国内外の古地図などの常設展示、楽しみながら地図に親しめる体験コーナーなど見どころ満載。同施設内1Fに地図デザイン専門店「Map Design GALLERY」も。

住所：小倉北区室町1-1-1 リバーウォーク北九州14F  
電話：093-592-9062  
営業：10:00～17:00（入館は16:30まで）  
12月：月曜日（休日の場合はその翌日）、12月29日～1月3日  
料金：1000円 ※保護者同伴の小学生以下は無料

**D** 北九州市漫画ミュージアム

漫画文化の素晴らしさを全国へ発信。松本零士をはじめ、北九州市ゆかりの漫画家を紹介する常設ゾーン、閲覧ゾーン、イベントコーナーや企画展示室などがあり、漫画の魅力を満喫できます。

住所：小倉北区渡野二丁目14-5 あらあ City5 南・6階  
電話：093-512-5077  
営業：11:00～19:00（入館は18:30まで）  
12月：火曜日（休日の場合はその翌日）、年末年始、館内整理日  
料金：480円（一般）、240円（中学生）、120円（小学生）、無料（小学生未満）

# 歴史散歩 周遊マップ

JR小倉駅からJR西小倉駅までの一帯は、紫川の西側を西曲輪、東側を東曲輪と呼んでいます。西曲輪は常盤橋から始まる旧長崎街道と小倉城周辺、東曲輪は基盤目の町割りが見どころです。かつての小倉城下町を想像しながら歩いてみてください。

### 1 妙乗寺



応永32(1425)年、佐賀へ向かう日蓮宗の日親上人が、小倉の沖で難破しそうになり安全祈願をしたところ、明星が岸に輝き、導かれて海岸に辿り着くことができたと伝えられています。

### 2 大門跡



室町から長崎へと向かう最初の門で、今の西小倉駅にありました。近年の発掘調査で門の礎石や護岸の石垣が出土したため、現在では歩道に透明板が張られ、地上から遺跡の一部を観察することができます。

### 3 長崎街道ギャラリー



室町のD.C.タワー建設時に行われた発掘調査で、武家屋敷跡、町屋跡の井戸などが発見されました。タワー1階北側のウィンドウには、陶磁器から玩具まで、各時代の息吹が感じられる多くの出土品が展示されています。

### 4 常盤橋



細川時代(江戸時代初期)に城下の西曲輪と紫川東側の東曲輪を結ぶ橋として架設されたといわれています。小倉から九州各地へのびる「五街道」の起点で、九州の要所、城下町小倉の中心として賑わいました。

### 5 伊能忠敬顕彰碑



忠敬は寛政12(1800)年、55歳で土地の測量を始め、日本全国の測量と地図の作成という偉業を成し遂げました。九州では小倉の常盤橋が測量の第一歩となったことから顕彰碑が設置されています。

### 17 安国寺



足利尊氏が全国に建立した寺の一つ。境内には伊達宗興の墓や松尾芭蕉の句碑があります。第27代住職・玉水俊成は小倉に在住した森鷗外と親交を結び、「二人の友」「独身」にも「安国寺さん」「寧国寺さん」の名で登場します。



### 6 参勤交代往還路



江戸時代、参勤交代の九州諸大名は常盤橋周辺の本陣で休泊した後、京町を通過して門司の大里湊へ向かい、江戸を目指しました。往還が商業施設内をつき抜けているため、その東西入口の歩道に表示しています。

### 16 三の丸土塁



小倉城内三の丸と西曲輪(武士と町人が混在)を区切っている土塁で、現存しているのは当所だけ。三の丸の中のこのあたり(現在の思永中学校)には、小笠原藩家老で宮本武蔵の養子である宮本伊織の屋敷がありました。

### 7 西顕寺



幕末に灯台建設を目指した岩松助左衛門(一七)が、小倉城には彼の偉業を伝える顕彰碑がありますが、西顕寺には彼の墓が祀られています。

### 15 八坂神社



元和3(1617)年、小倉城主の細川忠興が鑄物師町に紙園社を祀りました。明治時代に八坂神社と改名し、昭和8(1933)年に小倉城内の現在地に移設。忠興の眼病平癒祈願の石造燈籠や鳥居は県指定文化財です。

### 8 生住寺



宝蔵院流高田派槍術(十文字槍)の始祖で、「槍の又兵衛」として有名な高田又兵衛の墓が祀られています。また、幕末の小倉藩の柔術家であり、方円流創始者の直方円斎の墓もあります。

### 14 小倉城



唐造りの名城として名高い小倉城は、慶長7(1602)年に細川忠興が築城。昭和34年に再建された天守閣はいま小倉のシンボルです。切石を使わない「野面積み」の石垣は忠興自慢の一つであったと言われています。

### 13 しろテラス



小倉城関連だけでなく北九州土産も販売。観光案内所とカフェがあり、和の雰囲気を感じるラウンジからは築城当時の石垣を眺めることができます。営業時間は9時～18時までで、年中無休。

### 12 岩松翁顕彰櫓



幕末、長浜(小倉北区)の岩松助左衛門は、小倉沖で相次ぐ船の遭難に私財を投じて灯台建設を目指しました。事業はのちに明治政府が引き継ぎ、明治6(1873)年に完成。顕彰櫓は翁の偉業を伝えるものです。

### 11 旦過市場



魚屋をはじめ、八百屋、果物屋、肉屋、惣菜屋などが軒を連ねる“北九州の台所”。旦過の名は、初代藩主忠真の父・秀政の菩提寺がそばにあり、門前の修行僧の宿泊所が「旦過寮」と呼ばれていたことに由来すると言われています。

### 10 菅原神社



慶長7(1602)年、細川忠興が小倉城を築城したころから小倉市内(城下町)の氏神として、農業・漁業・商業・産業・交通の神々を祀り、信仰を集めています。また菅原道真公を祀っており、学問の神様としても親しまれています。

### 9 欣浄寺



小倉藩主・小笠原忠真が兜の上にこの寺の子安観音菩薩像を頂き合戦に赴いたところ、数度の戦に一傷も負わず、多くの戦功を立てて帰陣したといわれます。この故事を詠んだ俳人・河野静雲の句碑もあります。